

甲申の春に

会長 飯田 龍鷹

新年おめでとうございます。
皆様の健康と平和をお祈りします。
虚子の新年の句に、「去年今年
貫く棒の 如きもの」と言う句があ
ります。暦の上では別の年でも私達
の生活、歴史、文化は一時も断絶す

岳精流日本吟院

ちよあ

第 1 9 号

平成 1 6 年 1 月

千代田岳精会弘報

平成十六年度岳精流指標
爽やか

ることなく昨日今日と続いています。
今年も又、詩の魂に触れ、心を揺
さぶられ、美に憧れる吟の生活が続
くでしょう。流石に虚子は時間と人
間の関わりを明確に捉えています。
さて、千代田温習会は旧臘十二月
十四日、天清澄、深川江戸資料館に
会員、後援者、約二百名集まり、伝
統芸を披露するにピッタリ。十二月
十四日は奇しくも、本所深川、赤穂
浪士討入りの日、因縁とは申せ、懐
かしい人情や心意気の世界を偲ばせ
るものがありました。
炎暑の八月頃から想を練った丈に
構成吟他、見応えがあり、春の昇伝、
夏の吟道大会、そして掉尾を飾る温
習の大会と、夫々の吟の会を全員の
主役意識と奉仕活動、そして長く培
って来た人生の英知によって目出度
く完了しました。
研修は教場の確保に苦心しつつも、
各教場全員一体で春夏秋冬、熱心に
吟詠研修をし、揃って皆上達しまし
た。研修と併せて、春の千鳥ヶ淵の
爛漫花見吟行会（嵐でしたが）秋の
鎌倉の錦繡紅葉吟行会を楽しみまし
た。
新年度は明治安田の新ビルの完成
と共に、千代田廿周年記念へのスタ
ートを切ります。男女夫々揃い踏み
で武道館への出陣準備です。それに
は吟力の益々の向上、吟楽充実が基
本です。先ずは今まで涵養して来た

知識経験の遺憾ない発揮をお願いし
ます。それに体力ある次代を担う成
長力ある会を作りましょう。六十代
は青年です。更に今や世に女性パワ
ーは素晴らしい。健やかで美しい千
代田の女性軍団を立ち上げましょう。
再び健康、平和でありたいと願っ
ています。昨年アメリカのイラク戦
に関わった日本。政治学者が言う文
明の衝突は、米国西欧文明と他のイ
スラム文明等とが対峙しています。
西欧文明こそ普遍と思うことが問
題。また戦後の日本人にとって、日
本独自の文明を否定したり、日の丸
論争に見られる戦前の存在を凡て否
定は不自然。そして戦後世代が作り
出した倫理混乱、教育の荒廃の根源
は、日本の文化的伝統をドラスティ
ックに破壊した占領政策こそ如何な
ものだったかと考える新年でありま
す。



星野 久泉 <清水>

平成十五年温習会深川江戸資料館で開催

構成吟「李白」に満場陶醉の一刻

一年の研鑽の総仕上げは、懐かしい雰囲気を残す下町「深川江戸資料館」。師走十四日、本所松坂町は吉良邸より半里とあって参加者みな何か感慨と期待を持って会場へ向かう。ご来賓の滝田幹事長、前澤婦人部部長を始め多くのゲストを迎え百九十名の熱気の溢れる中で開会。毎年新しい企画で進歩を続ける温習会は、今年は五人チームの合吟コンクール、企画構成吟、剣舞に加えゲストの方々の他流の吟、端唄、相撲甚句の祝い唄とバラエティに富んだ構成で大変な盛り上がりであった。十五組で争われた注目のコンクールは、大接戦の末、何と末娘教場草加分教場が晴れの一位の栄冠を獲得し歓声が沸いた。第二位神田教場男子、第三位清水教場でそれぞれ飯田会長より賞品が贈られた。入賞を逸したチームも僅差だった。呼び物の本年度コンクール入賞者と教場長による構成吟「奔放の詩人・李白」(詩歌研渋谷辰山リーダー、前田道山・山口隆泉サブリーダー構成)は十五人の登壇者の熱吟に、ハザマ教場前田達也氏のOA機器を駆使した見事なスライドと熟達のナレーションで、前澤先生からも「記念

大会並みのスケール」とのご感想と、心に沁みるような「芙蓉楼にて辛漸を送る」王昌齡作を吟じて頂いた。滝田幹事長は、ご挨拶で「宗家を始めとして本部では千代田岳精会の日々の研鑽、諸行事での役割担当能力、機関紙『ちよだ』の内容等平素から期待と尊敬の念を持っています」と過分の褒評を頂き、温習会には毎度ご出席頂いていた故遠藤前幹事長ご愛吟の「江雪」柳宗元作を吟じられた。終了後の懇親会は、会場から歩いて三分の名園「清澄庭園」内の「大正記念館」宵闇迫る庭園は、ゆっくが鑑賞には時間が足りず残念だった。今回担当の丸の内第二・清水教場が半年前から実行委員会を編成して準備にかかり、リハーサルを含め現地打合せ4回、山手英泉チーフのきめ細かい計画に従い役割分担で取り組んだ。内外の評価は、今後の基本的なお手本と賞賛の声が高い。ご多忙の中、おいで下さった滝田幹事長、前澤先生、ゲストとして登壇の方々、裏方として協力下さった全教場の皆さん、本当に有難うございました。

剣舞を習って

錬水教場 仁木 正男



「芸」には無縁の私が詩吟を始めたのは、ふとした切っ掛けでしたが、それが更に飛躍して剣舞の世界に入ってしまったのも全くの偶然でした。妻の古希の祝いに何かと思っていたところ、吟の先輩加藤錬山(剣舞では神刀正邦流宗家先生)氏から剣舞を薦められました。着物も有るし「まあいいか」と気軽にお願いし一カ月で仕上げ、どうにか事なきを得ました。が中身は相当ひどいもののように感じました。しかし衣装でカバーし一件落着と思った矢先、加藤先生から温習会にエントリーしておいたからと青天の霹靂の話でした。身内の前なら余興と云うことで済むことですが、居並ぶ大先輩の前でとてもお見せ出来るような剣舞ではないので固辞しましたが宗家命令と云うことで特訓が始まりました。毎週詩吟の勉強会の後の蕎麦屋の焼酎も飲まず

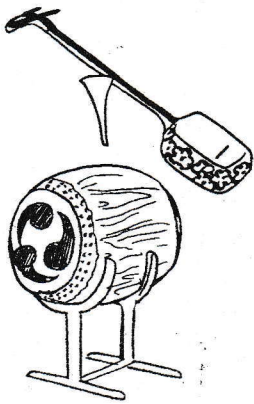
一対一で勉強しました。白扇がすんなり開かなかったり、刀が鞘に納まらなかつたり、腰が浮いた、足が伸びていない、姿勢が前倒した、目線が悪い等々。古希の楽しい宴の余興である筈の剣舞がいつの間にか苦難の連続になってしまいました。温習会の前日まで練習しましたが、白扇の開き、刀の納めには一抹の不安を残しながら当日を迎えました。昨年四月の全国吟道大会での黒子役とは違い、独演では自分の責任なので大変緊張しました。しかもです。刀が鞘から抜けませんでした。それは私の危惧の中にはなかったことで、本当に洒落にもなりませんでした。幸い冒頭に菅原教場長からの暖かいメッセージがあり、抜けなかった刀の件も皆様から助けられ事無きを得、無事終わる事が出来ました。冷汗百斗でした。

詩吟の魅力の大洗礼

清水教場 武藤 孝

入会早々でもあり「温習会」の話題を聞いても自分には関係ないことと思っていました。が、実行委員会の末端を汚すようになって皆さんの力の入れ方に触れ、又ピンチヒッターで連吟に出ることもなって緊張が高まって来ました。当日は場外での役割が多く、全て

を見る事が出来なかったのは残念でしたが、会場内の雰囲気は充分に感じることが出来ました。兎に角メニューの多さにびっくりしました。そしてこれをこなしている方々の、敢えて云えば殺気立ったやりとりを見て、大変な会だと実感しました。特に「企画構成吟」「コンダクター合奏」「合吟コンクール」では、詩吟初心者として奥の深さと質の高さ、ハートモ二の立派さにすっかり感動し、目指すものが見えた気がしました。出場された方々の真剣さ、若々しさ、明るさはどうでしょう。これが詩吟の魅力なのでしょう。六十名程のゲストが会場に居られました。が、どんな感想だったのでしょうか。構成吟でのナレーションやプログラムの注釈もあり、楽しんでいただけだと思います。今回の会、欲を言えば進行を含めもう少し時間の余裕をとり、ゆっくり出来れば良かったという気もします。何れにしても初めての世界を体験し、アツという間の一日でした。



平成十六年本部及び千代田岳精会行事予定

三月 七日 (日)	◎宗家全国研修会
〃 廿六日 (金)	○コンダクター技術向上研修会
四月 十七日 (土)	○昇伝審査会
五月 廿日 (木)	◎第四回合祀祭
〃 廿八日 (金)	○コンダクター技術向上研修会
六月 廿七日 (日)	◎全国吟道大会
七月 三十日 (金)	○コンダクター技術向上研修会
八月 廿九日 (日)	三十日 (月) ◎本部夏期師範特別研修会
九月 廿四日 (金)	○コンダクター技術向上研修会
十月 廿九日 (金)	○コンダクター技術向上研修会
十一月 三日 (祭)	◎奥伝以上並びに師範審査
〃 十九日 (金)	○コンダクター技術向上研修会
〃 廿六日 (金)	◎宗家全国研修会
十二月 五日 (日)	○千代田岳精会温習会

会場手配により変更があります。詩歌研修会は毎月第四金曜日。自主研修会は会場手配後連絡。本部関係は決定次第連絡します。

◎本部行事
○千代田岳精会行事

新春雑感

副会長 磯田 龍真

昨秋鎌倉吟行会の折、清水教場の湯山申泉さんが「七度の干支迎え来 おらが春」の俳句を披露され、やんやの拍手で、その意気軒昂振りに皆で祝福しました。当会は神田教場の粕川恒夫さんの九十五歳を筆頭に寿栄会員が四十七名居ります。これは会の三割を占める大軍団で、その活躍振りを抜きにしては千代田の会は語れません。かく云う私も晴れて会員の仲間入りを果しました。

「年甲斐のない人生を！」

いい歳をしてあの人は：と、年甲斐もなく云々。私はこの言葉に挑戦して生きてゆきたいと思えます。良い意味での不良老人と云われる人になりませんか！ ◎服装は明るく ◎歩く時は背筋を伸ばし ◎ほどほどに異性に関心を持ち ◎やりたい事はやり ◎詩吟をどんどん吟じ ◎常に夢見る男に：等々。

「愈々来年は千代田廿周年！」

「詩歌研究」「演奏」の各部門を設けし又コンクール担当を設け夫々のリーダーを中心に活発な活動を展開しました。そして会員の皆さんと俱に学び吟楽人生を謳歌しました。今年には更に組織内容を充実させ、来たる廿周年に備えるべく新部門の

設置と各部門の計画内容を充実させます。より楽しい千代田により活発な千代田にと計画しております。

「廿周年の夢」

廿周年には本部の宗家を始め、近隣の会の吟友を招待し千代田岳精会の健在振りを発揮する事は勿論の事大いに吟楽を謳歌したいと思えます。新しい吟友を更に増やし二〇〇名体制を実現しましょう！。そして念願の男女二組揃い踏み武道館合吟コンクールに出吟。入賞へと更に夢を拡げましょう。

今年も「吟楽」！「吟楽」！「吟友よ有難う」！と俱に手を取り合い頑張りましょう。祈、ご健吟！よい年を！。

平成十五年昇伝・準師範昇格
お目出度うございます

皆伝師範 磯田 龍真（副会長）
皆伝 井手 龍樹（丸一）
奥伝 魚井 啓風（丸一）
太田 翠風（丸二）
花山 桜風（東陽町）
福島 起風（神田）
穴倉 虹風（丸女子）
大杉 緑山（丸一）
山口 朱山（丸一）
杉野 統山（丸二）
八尾 葉山（東陽町）
赤根 惇山（東陽町）
大槻 銚山（清水）

中伝準師範

よくここまで来たな

神田教場 福島 起風

私が千代田教場に入会したのは平成四年二月。十二年を経過して今回奥伝の審査（実技）を受け、論文を提出したが、実は「よくここまで来たな！」というのが感想です。入会当初は、考えてもみなかった別世界ということですから。なんと云っても健康に比較的恵まれたことと、飯田先生をはじめ諸先輩のご指導の賜ものです。改めてお礼申し上げると同時に、今後も引き続きご指導をお願いいたします。

吟と出逢って
丸の内女子副教場長 穴倉虹風

詩吟を習い始めて十数年。ここまですごくとは思いませんでした。飯田現会長が太田さんと私に磯田現副会長を紹介して下さいました。入会した当時は会長を始め男性七八人女性三人の少人数でしたが本当に楽しく吟を始める事ができたと思えます。磯田先生、平井紅風さん、菅原現女子教場長、今橋さん（故人）何人もの方に大変お世話になり、皆様のご指導と優しさでここ迄続ける事が出来たのだと思います。私は二度の大病にかかり、皆様に心配をおかけ、大変にお世話になり

ました。実は手術前に呼吸の練習があるのですが、吟のお陰でスムーズに行なえ術後の経過も早く、先生にも看護婦さんにも誉められました。吟と出逢って本当に良かったです。今回の奥伝試験を受ける状態で無かったのですが受けさせて頂くことになり、飯田会長に一週間前に特訓をして頂き、とてもお世話になりました。微力な私ですが、これからも菅原教場長と女子教場の発展をお手伝いさせて頂き、吟友を集めて、楽しい教場になる様、努力して行きたいと思います。

これから諸先生方のご指導宜しくお願い致します。

感謝

久し振りのドキドキ

草加分教場長 太田 翠風

カラオケが歌える様になるよ！その一声で入会、十余年楽しき事のみ追いかけて過ぎ、吟は少しも上達せず今日に到りました。こんな私でも、諸先生方のお陰で奥伝審査を受けさせて頂くことになり、去る十一月三日「サンワークかながわ」に向かいました。

久し振りの実技審査と、予定していなかった俳句もやる事になり、私達千代田五人組は皆一斉に緊張して石井先生の前に座りました。（勿論

純情な私の小さな胸は張り裂けそう？」指定の二句のうち好きなものとの事で、順番に吟じたところ、教習手帳をじっくり見られ、習っていない俳句をどうしてやるのか、のご指摘もあり、いよいよ自分の番が来ました。日頃の図々しさも少しもどおり、前日まで覚えきれなかった句も何とか誤読せず無事吟ずる事が出来、ホッと致しました。

帰りに駅前の居酒屋にもお付合下さった飯田会長より、良くも悪くも「この達成感が良いのだ」とのお話に納得、一杯の美味しかった事、やはり千代田岳精会での吟は辞められませんか！とつくづく思った一日でした。



久し振りの緊張感

清水副教場長 大槻 鉾山

今年千代田から準師範試験を受けた同期生は、赤根、八尾、山口、杉野、大杉、大槻の六人でした。井手先生から事前のご丁寧な講義を頂き自信を持って受験をいたしました。

終わってから皆で総括しましたが、講義が的を射ていたせいでしょか、夫々が満点までは至らないまでも八十点以上の合格点を取れた筈だと喜び合いました。学校を出てから試験を受けると言う事は絶えてなかったわけですが、久し振りの緊張感を味わいました。しかし実技は無く筆記試験のみでしたので、事前の講義に添って一ヵ月位の継続した努力をすれば皆合格点が取れるでしょう。問題の最後は「準師範をとってからの抱負について述べよ」と云う論文になっており、これは採点者の考えで決まりますので受験者の日頃の考えを赤裸々にぶっつけければそれでよいと思います。

さて、準師範の資格をどの様に考えたらいいのでしょうか？八年前村上教場長のお誘いと、元々邦楽に興味を持って居った自分の考えで入門を致しました。初めは進歩の度合が自分でもわかったのですが、どうしても先生や宗家の吟と較べて見ても、しまい発声や節調に満足が出来ず悩みは尽きません。

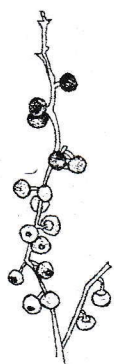
更に加えて年齢による声帯の劣化があり吟の終着点が灰色のものに見えてしまします。準師範の肩書きは有難く頂戴いたしますが、実力の伴わない現状を叱咤激励して、大槻流での安住の着地を求めて生徒として継続して行こうと思っています。

準師範審査を受験して
東陽町教場 八尾 葉山

十一月三日のペーパーテストは、私にとって何十年ぶりの体験でした。受験前は入学試験のテストのような緊張感を味わい、終わっての解放感は何とも言えぬ心地よいものでした。飯田会長も激励に駆けつけて下さり、審査後の打上げ会にもご出席いただきなど、お陰で楽しい一日を過ごすことができました。当日は九時過ぎに会場の「サンワーク」かながわに到着しましたところ、会場は既に満席、幸い千代田の方々が席を取って下さったので助かりましたが、皆さんの真面目さ熱心さには頭が下がる思いでした。定刻キッカリに開会、宗家のご挨拶、宗嗣の受験についての注意事項のご指示があり、十時から筆記試験が始まりました。幸い事前に井手先生による模擬テスト、磯田副会長によるアドバイスもあり、少々の失敗はありましたが、何とか合格点は取れたと思っております。午後、深浦三河岳精会長による面接でした。三河は実に四十五の会場を持つ会であり、深浦先生から新会員の誘致と教場の開設を強く勧められました。今後なお一層努力し、千代田岳精会の発展に寄与せねばと強く感じた一日でした。

準師範受験について
丸の内第一教場 山口 朱山

霧に包まれた文化の日の朝、今日は「サンワーク」かながわで準師範テストの日です。七時、家を出て会場へと急ぐ。開会九時三十分には全員が席につき、宗家から『全国で四百名参加の礼と節を中心とした審査会です』とご挨拶を頂き、宗嗣から出席者三十一名に細かいご注意を頂き、十時筆記試験が開始されました。私は学校を卒業以来何十年も試験の体験も無かったのですが、一時間の試験も誰一人として席を離れる事もなく真剣に試験に取り組みました。午後は一人五分位の面接、この頃には大分落着きリラックスした状態で、ご指示を伺うことが出来ました。試験問題の最後の「心構えと抱負について述べよ」との問いについては親しくお話しする事が出来ました。私は宗家の「美なるものに感動し」一人でも多く吟のお仲間を増やしたいと素晴らしさを広めてゆきたいと申しました。夕方からの強い雨のなか、心も体もホッとして帰路につきました。色々とご指導下さいました諸先生方に心よりお礼申し上げます。



詩歌研修会
憂愁の『詩聖杜甫』をテーマに

本年度、スタート以来会員が担当し、多方面から掘り下げたユニークな解説を展開して好評の研修会では八月から「李白」に続いて杜甫」を取り上げ、延べ十二人が幅広く研究された内容で解説を担当した。

八月廿三日
基調解説
春望
曲江
九月廿五日
紅畔独歩花を尋ぬ
帰雁
両箇の黄鵠
十月廿三日
旅夜懷を書す
八陣の図
秋興
十一月廿七日
登高
岳陽樓に登る
江南にて李龜年に逢う

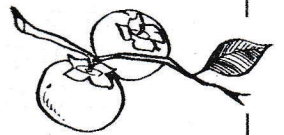
十二月より「詩仏王維」研修をスタートしております。多数の参加と待っています。また解説を引受けて頂ける方大歓迎です。

「ちよだ」では次号より解説内容のダイジェスト版を解説者にお願ひして掲載を予定しています。

渋谷辰山
福島越風
八田玉泉
鈴木重風
大槻鋒山
耳塚昇山
宮沢修泉
上田也泉
井手竹泉
西川宗泉
井手龍樹
高橋辰泉

年男。年女

今年の干支は甲申です



健康第一主義

神田教場 粕川 恒夫

「命短し 恋せよ乙女」若き日の頃、この歌が好きで、よく歌った。ただ歌ったばかりで、ついに実ることもなく、いつの間にか申年最高年の年男になって、恥ずかしい限りです。米寿の頃、腹部大動脈の瘤ができのいるから、激しい運動はせぬようにとの注意を医師から受けていたが、ゴルフやダンスは楽しい上、健康に良いので続けていました。四年ほど前、林吾風先生の門下に入門、詩吟を習い始めてからは、今まで以上に人生が輝いてきました。こんな楽しいものなら、もっと前から習っておけば良かったと悔やまれます。最近、旅行やゴルフへの参加が以前と比べ回数が減りましたが同好の人に勧められ時々カラオケに出かけています。「君恋し」「船頭小唄」「並木の雨」など昔の歌に興味があります。いま自分は「健康第一主義」という気持ちで一杯で、人生最後を楽しみたい。私の足・腰がしっかりして

いる限り、ダンス、カラオケ、詩吟の三つは、これからも続けていきたいと思っています。

抱 懷

清水教場 湯山 申泉

大正庚申十一月に生を享け、長じて北京在住の兄を頼って中国へ渡った。そこで清水建設に入社。現地出征、ソ連抑留後帰国し社会復帰した。亡兄克己(号愧平)は俳句、漢詩に造詣深く、勉学を奨励。そのため一応中国語は会得していたが漢詩の領域には至らなかった。

六年前大槻副教場長に薦められ千代田岳精会に入会した。従来書と俳句には興味あり多少嗜んでいた。飯田会長の許しを受け書道吟にも挑戦。吟を始め漢詩に接する機会も多く、これも偏に会長始め会員のご指導の賜と深謝し、晩学ながら生涯学習として精進する所存。十月宜しくご支援の程を。吟楽の友人各位の健康と栄光を祈りつつ。



干支を重ねて詩吟に励む
ハザマ教場 佐藤 光泉

七回目の干支を迎え、八十路に入り四年の春が訪れました。戦前、戦後を通して幾多の分野を走り、改めて偲べは長い道程でしたが、健康に恵まれ現在に至りました。事は真に幸せの次第です。私共が若手社員の頃の社長は詩について大変熱心な方で、役職員に対し詩吟を奨励いたしました。当時を緬くと、塩谷温先生作の詩の中に「間組健児の謡」がありましたので抜粋いたしました。

健児の一隊、気は豪雄
谷を填め、山を穿って
猛龍を擒にす
水力電流、国富を増す
人工却って是れ天工を奪う

今年も又、干支を契機に更なる努力を自覚しております。

猿遊会万歳

東陽町副教場長 武田 弘山

「猿遊会」私の小学校同窓会の名前である。四十二歳、男の大厄を機にスタートしたこの会も今年で満三十年。春の一泊と秋の日帰り旅行を欠かさず続けて三十回目となる。

皆んな年齢相応にいい爺さん、婆さんに姿が変わっても、会えば忽ち生粋のズーゾー弁まるだしの会話が飛び交う。相手に呼びかけるのも昔のまま。因に私の呼び名は「コウギツアン」。出席するたびに、生まれ育った郷里岩手の良さを実感させられる良い機会である。若かった我々も七十二歳の会をあと何年続けられるか。いや、喜んで参加してくれる人達のため、一年でも永く続けていこう。幹事役の一人としてそうした思いを新たにしている。

美しい吟

ハザマ教場 二宮 祥修

美という文字は辞典に依ると「羊」と大とで、丸々と肥えた大きな羊の意」とある。古代の漢人は昨年の干支「肥えた大きな羊」を美の代表として考えていたのである。羊の群れを視て、視覚、触覚、聴覚、臭覚、味覚の五感で感じて快いことが美なのである。

さて、此処で聴覚での快い音とは何か考えてみたい。

楽器には色々な種類があり、それぞれ良い音を出す素人が音を出しても楽しい音にはならず、不快な雑音にしか聞こえない。楽しい音、即ち音楽はリズムとハーモニーにより創造される。

漢詩は、本来中国語により朗読された。日本人には難解な四声を駆使して、音楽的にも美しく聞かせるために、押韻、平声、仄声の組合わせ方が作詞技法として生まれたものと思われる。残念乍ら日本人には真似ることは出来ない。そこで返り点や送り仮名をつけ訓読することにより日本語に翻訳したが、音声による表現は中国語とは全く違うものとなった。日本語で作詩者の意を表現するには如何にすればよいか。

幸に私達には宗家の作られた巧みな節調がある。この節調に乗せてリズムとハーモニーを調え、それぞれ個性による微妙なニュアンスにより、五感全てに訴えて、詩心を表現するように努力すれば自ら吟の美しさが醸し出され、宗家信条「詩を吟ずることにによりその美なるものに感動する」の境地に到達出来るのではないだろうか。生れつきの声の良し悪しは変えようもないが、努力次第で美しい吟は出来ると信じ研鑽に励みたいと思う。

大山詣

清水教場 星野 久泉

わが家では元日の「大山詣」が恒例となっている。朝車で麓の駐車場まで行き、ケーブルカーには乗らず阿夫利神社下社、更に奥社への道を

登る。コースは適宜選ぶか、最近ではぼ定着した。昨年は雪が多く、上の方は凍って滑り易く難渋した。従って帰路は南面の見晴台コースとしたが、頂上直下では樹氷が陽にキラキラ輝いて素晴らしい眺めを満喫出来た。

年初の行事として前年の破魔矢を往きに下社で納め、帰りに新規に求め一年間床の間に飾っている。新しい年は申の絵馬付のものとなるので保存し、次に巡り来る申年まで元日登山を続けて申絵馬を並べたいとの思いを新たにしている。

七回目の申年を迎えて

ハザマ教場 前田 達也

十二年を一周りとしますと、我々昭和七年生まれ組は、最初の二周りは激動の時代でした。

六歳で小学校入学、国民学校を卒業して中学一年で一周り、入学記念写真はカラー色の制服にゲートル、校章の付いた戦闘帽姿です。二周目は、援農【地方で私は空襲を免れた】に墨塗り教科書、新制大学に反レッドパーシ闘争、ろくに勉強もしないで無事卒業。社会人の第一歩を踏み出しました。

三〇五周はお定まりの企業戦士、わき目もふらず、家庭は若干かえりみて、目出度く定年。隠居仕事も少

なくなつた六周半は縁あつて「岳精会」に入門しました。

節目の今年は、健康に留意しつつ、皆様方と相携え更なる流統の発展に微力ながら尽くして参りたいと存じます。宜しくお引き回しの程お願いいたします。

節目の年を迎えて

東陽町教場 花山 桜風

花にはどの花にも夫々の美しさがある。吟も誰の吟にも夫々の美しさがある（宗家語録）と言われながら、声も細く喉も弱く発声の会得も出来ず、ちつとも自分の吟を美しい吟などと思えないまま、十年余の月日が過ぎてしまいました。今回奥伝審査を受けさせていただき汗顔の至りです。どうしてこんな長く続けられたのでしょうか。

吟の不思議な魅力、漢詩の表現、言葉の美しさ、大きな声を出す楽しさ、そして何と言つても吟友の皆様との交わりでしょうか。

今年は年女、定年を迎えます。子育てをしながら（ちよつぱり主婦も）仕事を続けて定年を無事迎えらるるそれはそれで心からほっとしている事です。

毎日が日曜日になるのです。そこへ行けば誰かが待っていてくれる嬉しさ、有難さ。今後は「無能、無才

にしてこの道一筋」。それ程大袈裟なものでもありませんが、吟縁に心から感謝し、続けさせていただこうと思つております。今年も宜しくお願い申し上げます。

詩吟を人生の友に

ハザマ教場 高橋 健一

明けましてお目出とうございます。新しい「申年」の新年を健康で、心改まる思いで迎えられた事は、年男の私として誠に有難く感謝の気持ち一杯です。

昨年は、恒例の千代田岳精会温習会の合吟コンクールに参加させて頂き、未熟な吟ですが緊張の中で全力でやれたと安堵いたしました。これも飯田会長、鈴木教場長のご指導の賜物であり、厚くお礼申し上げます。本年は、更なる吟力向上を目指し、夢と希望をもって、詩心を明確に表現した吟詠が出来るよう努力し、詩吟を人生の友として続けて行きたいと思ひます。

最後に、宗家先生のご健勝と岳精流の益々の隆昌発展を祈念します。



私の生き甲斐「神田教場」

神田教場 池田 皓泉

もう六十歳か、いやまだ六十歳だと、いろいろ感じる事の多いこの頃仕事と家庭に忙しく過ごしてきた私が吟の世界に飛び込んで、はや八年経ちました。ここまで続けられたのも主人の理解と協力のお陰と思ひます。毎週教場で二時間たつぷり勉強し、仲間と吟に会える楽しさ、充実感を味わいながら家路に急ぐこの頃です。

何か一つでいい、自分が夢中になれるもの。それが私の生き甲斐と思ひ、まだまだ六十歳これからだと言ひ聞かせて千代田の仲間達と一緒に明るく楽しく勉強したいと思つています。最後に皆様の健康を願つて止みます。

詩吟との出会いに感謝

草加分教場 名取 六子

「先生は、厳しいけれど的確に温かい指導をして下さる」と、本当に楽しそうに詩吟の話をされる上司の渡辺幸泉店長でした。私も昔々ほんの少し習ったことがありましたので、何となく懐かしく、又羨ましく思つておりました。健康にも良いと云うことでお誘いがあり、喜んで入会

させて頂きました。

岩崎教場長の素晴らしい吟、そして厳しい中にも温かいご指導に納得いたしました。思う様には声も出ず困ってしまいましたが、度々でした。でも太田分教場長始め教場の皆様のおかげで優しい励ましと楽しい雰囲気の中で歴史や吟を学べる事は夢の様です。心から感謝して居ります。

温習会、コンクール等、幾度か出場させて頂きまして、諸先生始め大先輩の方々の吟を通して生き生きと生涯青春を謳歌されておられるお姿に接し感動致しました。益々吟が好きになりました。

今後とも、どうぞ宜しくご指導下さいます様お願い致します。

この他壬申六名、甲申一名の年男年女がおいでです。

「教場だより」

「鬼怒川吟行会」二つの驚き

神田教場 福島 起風

今回は病み上り直後の参加となったが、強く印象に残った二点に触れてみたい。

第一点は参加者三十九名が籤を引き、その番号の絶句、短歌、俳句を吟じた。東京駅前を迎えのバスで出

発し、鬼怒川に向かう車中での試み。これまで習っていないものが多し。磯田副会長が「よくも強心臓、この度胸のよさに驚いた」と云われたが、こういう吟の勉強方法もあると云うことを発見した。度胸試しである。参加者お互いに与えたインパクトも大きかった。

もう一点は、翌日、宇都宮の郊外の平和記念観音像の見学。高さ廿七mの像で、戦後廿三年から六年の歳月をかけ大谷石の石壁を削って完成。第二次世界大戦の戦没者を祈願したものという。

宇都宮には、これまで屢々出掛けていたが、こんな立派な像があると知らなかった。私にとっては大きな驚きであった。「旅行は驚きと新しい発見が多い」と、よく云われる。鬼怒川吟行会は、多くの刺激もいただき、大変な勉強となった。

吟楽部古都鎌倉紅葉狩り吟行会 大塔宮を偲び献吟

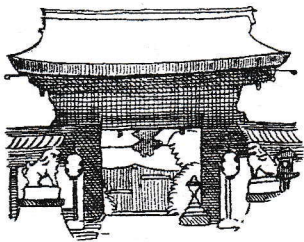
丸の内第二教場 八田 玉泉

紅葉の連休で北鎌倉駅は通勤ラッシュ以上の混雑。皆さん功刀吟楽部門サブリダーの「千代田岳精会」の白旗にやっと辿り着いて、いざ出発となったが、全員で団体行動の出来る状態ではなく、小グループで円覚

寺から建長寺、八幡宮そして鎌倉宮へ人混みと紅葉を愛でながら三々五々集合。

鎌倉宮は、建武の中興の渦中悲運の死を遂げた後醍醐天皇の第一皇子大塔宮護良親王を祀る官幣中社。国民学校の教科書で習った内容は今でもよく覚えていて、飯田会長が玉串を捧げ藤井竹外の「芳野懷古」を、続いて参加全員で太宰春台の「稻叢懷古」を献吟した。

楽しみのお昼は、鎌倉宮崇敬会員高橋辰泉さんのお世話で、境内の太平殿で乾いた喉にビールとお酒もたっぷり出て幕の内のお重を味わう。大槻清水副教場長の鎌倉名解説を聞くと、早速菅原リダーの準備された鎌倉と秋を選んだ吟題集で吟が始まる。初めての多いが、そこは百戦錬磨の強兵揃い、酒の勢いも加わり堂々のご披露であった。四十人余りの参加者には時間不足で出番の回らない会員もあったが、行き届いた吟楽部を始めお世話の方々のお陰で楽しい一日でした。



『私の心に残る一詩』その十二

忘れられない

全国吟剣詩舞道大会

丸の内女子教場長 菅原 琴風

平成八年度

日本武道館出場の練習に飯田会長より千代田から三名推薦して頂きました。

清明

杜 牧

清明時節雨紛紛 路上行人欲斷魂
借問酒家何處有 牧童遙指杏花村

八月から月二回程度の練習ですが、これが又厳しい練習で詩文の理解はもとより発声、アクセント、調和、女性吟の声だしまで難しかった事。無念にも0・4程度音程が高いと言ふことで失格。一所懸命練習を重ねて来たのに、涙が出てなりません。

平成九年度

金剛山

山岡

鉄舟

一片赤心報国情 千秋節義至今清
金剛山下孤城畔 挂得虎狼百萬兵

これ又練習の甲斐なく三日前に急の入院（胆石、総胆管結石）



五十名の努力の結果準優勝。入院先に銀メダルを届けて頂きました。

平成十年度

蘇台覽古

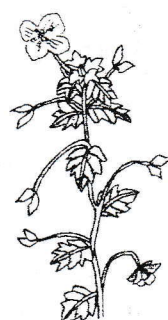
李白

舊苑荒臺楊柳新 菱歌清唱不勝春
只今惟有西江月 曾照吳王宮裏人

七月より渡精華先生も、熱くやる気満々、例年に増して厳しく、それに耐え苦勞した甲斐有り優勝。金メダルを胸に掛けた時の嬉しさは忘れる事が出来ません。
お陰様で、正月のNHK教育テレビの初吟にも優勝吟として十五名で出吟させて頂き、良い記念となりました。（どの年も捨て難く三詩となりました）



吟剣詩舞道連盟コンクール
地区予選三十九名申込み



千代田の春の歳時記のように定着して来た吟剣詩舞道連盟コンクルの各地区予選の日程が決まり、受付が締切られたが、総勢三十九名の申込みがあった。

年齢区分では一部三名、二部十三名、三部廿三名。教場別では清水の十名を筆頭に神田八名、ハザマ七名、東陽町六名、草加五名が続き、丸の内第二、女子教場からも出吟する。この他橋本淳泉（神田）は昨年優勝時の成績により 五月十六日の都大会にエントリーされている。全員が持てる力を存分に発揮して昨年を上回る入賞となるよう健吟を期待しよう。

皆さん応援をお願いします。

◆品川区 三月 六日（土） 申込者数 十名

◆港区 三月 廿一日（日） 申込者数 廿一名

◆川崎地区 四月 四日（日） 申込者数 八名

◆東京都 五月 十六日（日）

◆東日本 七月 四日（日）

平成十六年度昇伝審査指定吟題

初伝 楠公子に訣るるの図に題す

中伝 軍城早秋
貧交行
武田信玄
増田 岳陽
杜 甫
嚴 武

奥伝 何事も
最上川
武野の晴月
常徳を去る舟中感じて賦す
良 寛
齋藤 茂吉
林 羅山
秋 瑾

(俳句)

皆伝 やせ蛙
神田川
坂本龍馬
子夜呉歌
一 太 茶
万 郎
松口 月城
李 白



コンダクター技術向上研修会

温習会に廿五名が登壇し、岳精流でも数少ないコンダクター研修部門は技術の上達振りがご来賓、ゲストより注目されたが、今年も六回の研修会が予定されている。
他会・教場の会員よりも平素の練習について、問合せがあり参加希望の打診があるなど、周辺にも拡がりを見せ益々注目されそうな情勢です。

『新会員紹介』

◇丸ノ内第一教場
関 昌子さん(十月入会)

平井紅風さんの中野プールでの仲間。水に浮かびながらの鼻吟に興味をもたれ、自分も吟がお好きとの事で早速勧誘。声も大きく、ハッキリした話し方をなさる方。将来が楽しみです。

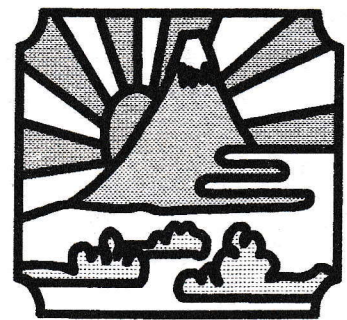
◇神田教場

上村 芳子さん(十月入会)

橋本淳泉さん、加藤千恵子さんのお誘いをうけ、九月十六日神田教場を参観、即日入会を決定。教室の様子をみての実感は楽しいという「しかし将来、どこまで詩吟が上達できるかは分からない」と控え目に一言。明治生命にお勤めであった上村さんの趣味は園芸とダンスとか、明朗で教場が一段と賑やかになった感じ。

◇東陽町教場
三沢 求氏(十二月入会)

明治生命OBで千代田教場草創期のメンバーで十数年振りの再登場、趣味も広く剣道五段、将棋五段、ゴルフ、麻雀、ウクレレもこなす。特に漢詩には造詣も深く、情に厚くユーモラスな話術の巧みさを持つ人柄は、周りの人々を楽しくさせてくれる。
ダンディな人生の達人。



編集後記

新年 お目出とうございます。昨年もお目出とした年でした。戦争もテロも無い世界になるのは何時でしようか。第二次大戦中ヨーロッパで「世界は日の出を待っている」という曲が流れていました。夜明け前の闇は暗いと云います。今年こそ輝く日の出を待っている心境です。
本号にも、多数の会員方より寄稿頂きました。一つ一つに長い年月で貯えられた知性と、何とも表現し難い滋味が行間に溢れていました。
温習会と日程が重なり時間的には厳しかったのですが、編集担当としては至福の時間といえました。
次号以降も宜しく願います。
(八田)